

令和4年産

# 気仙沼・南三陸 稲作情報 第3号

令和4年6月1日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

## 今後の管理のポイント

- ・活着後は水深3cm程度の浅水で管理し、分けつの発生を促しましょう。
- ・雑草の発生が多い場合は、中・後期剤による除草を行いましょう。
- ・補植用残苗はいもち病の発生源となるので、早急に処分しましょう。

## 1 気象経過

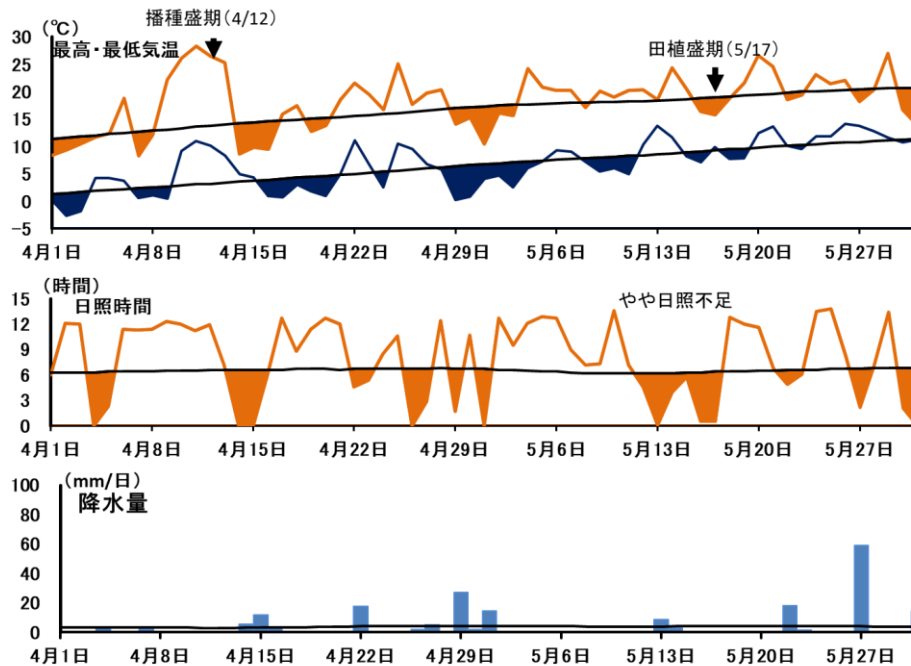


図1 気象経過（気仙沼アメダス 4月1日～5月31日）※黒い実線は平年値

## 2 水稻生育調査ほの生育概況

- ・管内の生育調査ほにおける苗質は良好であり、適正な植付本数（4～5本/株，19～21株/m<sup>2</sup>）を確保しています。移植後の活着は順調であり、分けつも確認され始めています。

## 3 播種・田植の状況

- ・播種盛期は平年より3日早い4月12日，田植盛期は平年より1日遅い5月17日でした。

表2 播種状況

	始期	盛期	終期
本年	4月2日	4月12日	4月21日
前年差	±0	-2	-1
平年差	-3	-3	-1

注) 播種の始期，盛期，終期は作付面積比でそれぞれ5%，50%，95%が播種された時期。

表3 田植状況

	始期	盛期	終期
本年	5月12日	5月17日	5月25日
前年差	+4	+2	-1
平年差	+2	+1	+1

注) 田植の始期，盛期，終期は作付面積比でそれぞれ5%，50%，95%が田植えされた時期。

#### 4 今後の管理の留意点

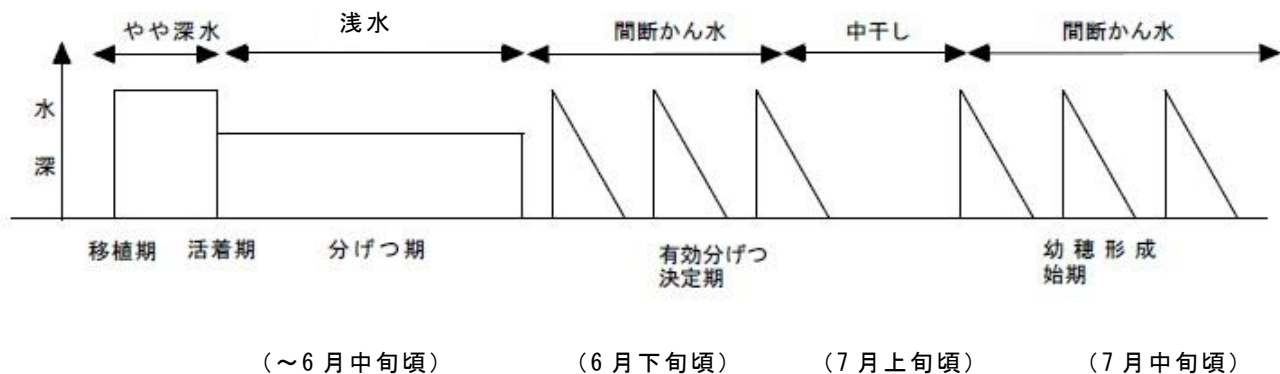


図2 出穂期までの水田水管理体系（宮城の稲作指導指針（基本編））

##### 【水管理】

- ・活着後は水深3cm程度の浅水で管理し、分けつの発生を促しましょう。
- ・低温や強風が予想される場合には、5～6cm程度の深水としましょう。

##### 【ガス発生の軽減】

- ・生わらや牛ふん堆肥等の有機物を多用している水田では、気温の上昇とともに有機物の分解が盛んになり、還元状態となるため、稲に有害な硫化水素等のガスが発生しやすくなります。中干しや一時的な落水などで土壤中に酸素を供給し、根の障害を防ぎましょう。

##### 【雑草防除】

- ・初中期一発剤を散布したほ場でも残草があれば、雑草の種類や葉齢、稲の葉齢を確認し、中・後期剤等で適切に防除しましょう。
- ・ヒエやイヌホタルイ等の雑草は、稲の出穂前にカメムシ類を水田に呼び寄せ、また、イヌホタルイやシズイにアカスジカスミカメが寄生・産卵しますので、雑草対策を徹底しましょう。

##### 【病虫害防除】

###### ① いもち病

- ・補植用の苗は、本田でのいもち病の発生源となりますので、補植完了後は早急に処分しましょう。
- ・箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、水面施用剤（粒剤、パック剤等）を初発の1週間前まで（6月中旬頃まで）を目安に散布しましょう。

###### ② イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ

- ・移植前～移植時に箱施用剤（殺虫剤）を使用した場合は、原則として本田での防除は必要ありません。
- ・移植前～移植時に箱施用剤（殺虫剤）を使用しなかった場合は、移植後に以下の要防除水準を目安に防除してください。

イネミズゾウムシ	侵入盛期の畦畔際2m程度の成虫密度：100株当たり140頭 （晩期栽培の場合は70頭）（減収率5%）
イネドロオイムシ	侵入盛期の成虫密度：100株当たり25頭、 又は産卵盛期の卵塊密度：100株当たり80個（減収率0%）

### ○だて正夢の栽培管理について

「だて正夢」は「ひとめぼれ」よりも茎数の増加が極めて緩やかです。茎数を確保するため、活着後は水深3cm程度の浅水で管理し、分けつの発生を促しましょう。展示ほの植付本数は5.5本/株、21株/㎡です。

目標穂数 350~450本/㎡

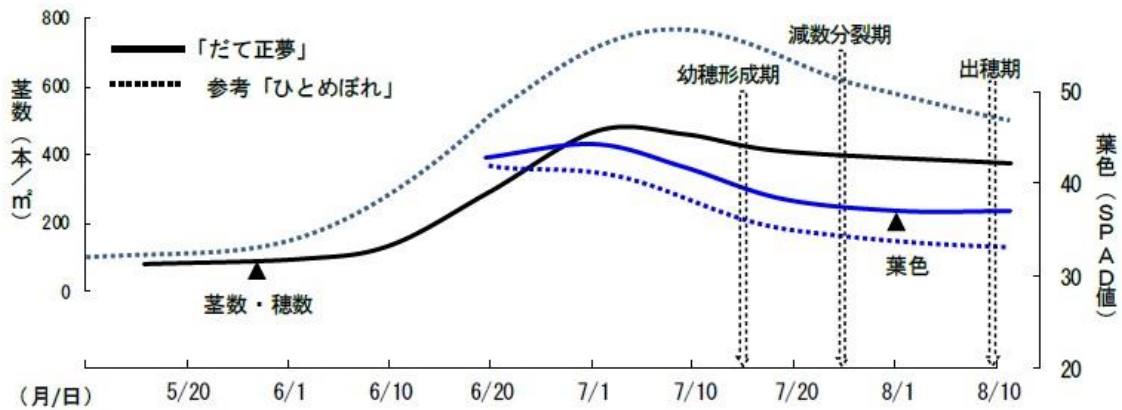


図3 「だて正夢」生育のイメージ (宮城県「普及に移す技術」第94号より)

注) 平成28~30年栽培試験にて適正な籾数・収量・品質を得た試験区の生育をもとに作図

### ○金のいぶきの栽培管理について

「金のいぶき」は「ひとめぼれ」よりも茎数の増加が緩やかです。茎数を確保するため、活着後は水深3cm程度の浅水で管理し、分けつの発生を促しましょう。展示ほの植付本数は3.7本/株、19.4株/㎡です。

目標穂数 440~490本/㎡

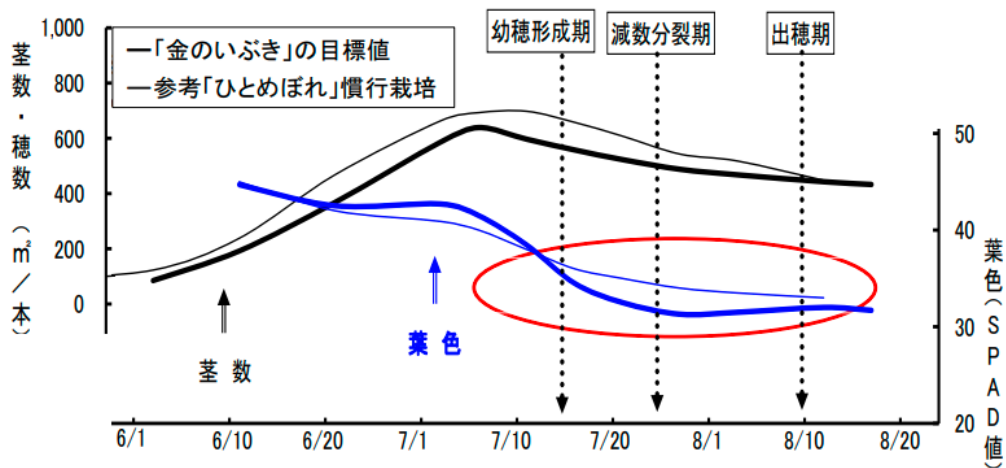


図4 「金のいぶき」生育のイメージ (宮城県「金のいぶき栽培マニュアル」より)

4月1日～6月30日は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

スローガン「しめよう！シートベルト」

6月1日～8月31日は「令和4年度宮城県農薬危害防止運動」の実施期間です。

○東北地方の1か月予報(5月28日から6月27日までの天候見通し)

によると、予想される向こう1か月の天候は下記のとおりです。

気温は平年並か高く、降水量、日照時間はともにほぼ平年並みとなる見込みです。

週別では、6月上旬までの気温は平年並、以降は平年並か高い見込みとなっています。

(仙台管区气象台による 令和4年5月21日発表)

([https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area\\_type=offices&area\\_code=040000&term=1month](https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=040000&term=1month))

○気象から見た栽培管理のポイント

→水稲の生育が早く進む可能性があるため、状況を確認しながら適期の水・肥培管理に努めてください。

→雑草の発生・生長も急速に進むため、中・後期除草剤の施用時期が遅れないよう注意してください。